

刊行あとがき

『経済同友会七十年史』は、『五年史』『十年史』『十五年史』『三十年史』に続き、年史としては四〇年ぶりに取りまとめたものである。校了を終えた原稿の束を目の前にし、その作成に要した時間と労力を振り返ると、七〇年という歴史の重みを実感する。

年史の刊行に四〇年の間が空いたのは、実は二〇年前の創立五〇周年の際は、年史に代え、『戦後日本経済と経済同友会』（岩波書店）、『経済同友会五〇年のあゆみ「資料集」』を出版したためであった。前者は、岡崎哲二氏、菅山信二氏、西沢保氏、米倉誠一郎氏の四名の気鋭の研究者の方々の視点から、経済同友会の活動を軸に戦後の日本経済史を描いたものであり、経済同友会の歴史をわかりやすく語る上で、貴重な視座を与えていただいた。

創立七〇周年が近づくにあたり、この間に蓄積した膨大な活動資料を整理し、正式な記録として後世に残すためには、このタイミングで年史を編纂することが不可欠との判断の下、その準備が四年前から始められた。その執筆は、長年にわたって経済同友会の活動やそこで活躍する多くの経営者を、経済記者として観察

してこられた重田育哉氏に託すこととなった。

重田氏の筆によるこの大作を通読してみると、戦後の日本の歩みとともに、各時代の節目において経済同友会が果たしてきた役割や、その過程で繰り広げられてきた激しい論争の様子が見事に活写されており、圧倒されるものがあつた。あらためて、経済同友会の一員として組織を支える責任の重さを自覚するとともに、こうした諸先輩方の気概と志を受け継ぎ、より良い社会の構築に向け、経済同友会の組織と活動を発展させるために全力を尽くす、という思いを新たにした次第である。

最後に、本史刊行に多大なご協力をいただいた執筆者の重田育哉氏をはじめ、読売新聞東京本社、中央公論新社の関係者各位、その他多くの皆様に、心より感謝の意を表したい。

二〇一六年一〇月

副代表幹事・専務理事 横尾敬介